

やくよけきたむきかんのん  
20 厄除北向観音

北源地

宮村町1丁目から大橋通りに抜ける庚申小路にある。往時、この小路には庚申堂とこの観音堂があり、戦前は地元に限らず多くの参詣者で賑わった。庚申堂は昭和の初め頃に浅間温泉の庚申堂に移されたが、観音堂は往時のまま当地で毎月17日に観音様の縁日を行っている。



なかじょうひがしだい 4 あきぼじんじゃ  
21 中条東第4・秋葉神社 中条東第4

町内所有の土地で公民館の庭の一角に昭和6年に遷座されたとの紀年銘(岡野庄平氏)が残る。町内あげて4月と10月の2回(第3日曜日)例祭を行い、防火や防災、商売繁盛、交通安全等々を併せて祈願するなど町民の心のよりどころとなっている。



ぜにざあとひ  
22 銭座跡碑

南源地

松本の銭座は町役人今井勘右衛門が請元となり、鑄工は三輪忠兵衛であったと伝えられる。この銭座は寛永年間(1624~1644)に置かれた全国11銭座のひとつである。碑は昭和43年に建立され、銭座の概要を記した銘盤、寛永通宝、松本銭の字形が埋め込まれている。



現在は市民芸術館裏に移されている。

さかえちようかいどうきねんひ  
23 栄町開道記念碑

栄町

大正10年(1921)10月25日に建立され、以後、今日に至るまで周辺の移り変わりを静かに見守ってきた。発起人は石井祐助他7名で、開道にあたり土地・金銭を寄附した関係者の名簿が裏面に彫られている。市内では貴重な開道碑のひとつである。

「開道記念碑」の碑文字は、従四位勲三等・長野県知事岡田忠彦の書を石匠・伴吉道が刻字したもの。碑の裏面には、道を開くにあたって土地(私道、宅地、田地)や200円から5円までの金銭を寄附した70余人の氏名が刻まれ、最後に当時この地で操業していた長野県工業試験場職員一同から22円の寄附があったことが刻まれている。



**M** 末広町(すえひろちょう)  
この地域は、明治時代になって川の名前に因んで長沢町とあったが、大正三年四月に区長制がしかれると、長沢町は七区に分けられた。町名の由来は、町の形が四方が狭く東方に行くに従い扇方に広がっているため、末広の扇に因んで、町の発展の願いを込めて末広町と命名された。

**N** 竹平町(たけひらちょう)  
大正十一年に長沢町が七区に分かれ七町が成立した際に、自分が所有する土地を提供して町づくりに貢献した竹内愛人氏に因み、竹内家の中興の祖である氏の祖父の平米氏の姓名の各一字をとって竹平町とした。また同じころ成立した常磐町・若松町の松、梅ヶ枝町の梅に竹が揃うと、松竹梅の縁起に因むめでたい町名になることも加味されている。

**O** 梅ヶ枝町(うめがえちょう)  
長沢町から大正八年に開設された長野県工業試験場正門までの道筋に沿う町名である。この辺りは菅原道真(菅公)を祀る深志神社の宮本であるので、梅を愛でた道真に因んで梅ヶ枝町と命名した。